

「出会い 末盛千枝子先生 その2」

街はクリスマスモードで一年で一番華やぐときですね。
末盛千枝子先生のインタビュー記事の続きです。

「満ち足りた状態だけが幸せなのではない。困難の中にあっても、希望を失わないでいられる。
希望を失わないでいられる。人を愛していられる。そうしたことも幸せだと思うのです」

幸せとは、特別なことではなく、日常の中に存在する・・・そして、人をいつくしむこと・・・
インタビューの中で先生自身のことが書かれていました。

「長男が8歳、次男が6歳のときに最初の夫が突然亡くなり、長男は難病のうえ、
大人になってからの事故で胸から下が動かなくなりました。」

先生が家族として、ご主人を亡くされ、病気のご長男さんを支えてきたことを知り、
家族として、病む人々をどう支えてきたのか、その来し方を語っていただきたいと思いました。

先生の著書『「私」を受け容れて生きる 父と母の娘』を読みました。
平明な文章に、生きていくことの深みを感じることができる文体に感銘を受けました。日本語って美しいなと思いました。
また、先生のお父様が彫刻家で、先生のお名前は彫刻家の高村光太郎氏がお付けになったことを知りました。

先生に家族としてのご経験を話していただきたい、そう思って岩手にご連絡し、ご講演をしていただけることになりました。
ご講演が決まった時、本当にうれしかったことが思い出されます。

2017年12月22日 東めぐみ

